

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名						公表日	R7年3月7日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		児童の人数が多い日は活動などで環境分けを行い、スペースを確保している			
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		手厚く支援出来る配置数である			
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		2階とゆう点はバリアーフではないが室内は段差もなく小さい子ども過ごしやすくなっている。視覚的にわかりやすく環境整備がされている	おもちゃがバラバラになる事が有る為、片付けBOXをより見やすくして行く。		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	1				
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8					
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8			目標設定の振り返りを増やしていこうと思っています。		
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8			ご意見を元に改善していけるよう務めています。		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8					
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	3		今後必要に応じて行っていきます。		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		様々な分野の研修を定期的に行っている	必要に応じて積極的にZOOM等利用し参加しており、今後も受講できるよう職員に情報を流していく。		
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8					
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8					
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8					
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8					
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8					
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		定期的に話し合いを行い、具体的な支援内容を決めている			
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		定期的にミーティングの時間を取ってすり合わせをしている			

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		大まかな内容に固定はあるが外出先、クッキング、ゲーム等なるべくかぶらないようにしている	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		朝のミーティング時におこなっている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		次の日に前日あった事等振り返りをしておりその後の改善案等考えている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		システム、紙ベースにて後追いまできるように記録しています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		定期的なモニタリング、またメッセージや電話のやりとりから見直しの必要性の判断をしている。	各関係機関での連携をさらにスムーズに行い、計画見直しの必要性について早期に判断できるようにしていく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	2	保育園、小学校は相談支援を利用している場合は相談支援を通して情報共有を行っている	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	1	必要に応じて情報共有を行っている	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	4	入学後送迎時に情報共有し、プラスで情報共有が必要な場合は改めて話をする機会を設けている	
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	8		外部研修があれば参加している	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	8		子相等、支援会議に参加している	必要に応じて今後も参加致します
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		8	相談員、区役所とは連携を図っている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	7		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8			
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	5		研修会の情報提供を行っていく開催している事業団や会社を探す	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		契約時に説明をし、質問があれば都度お答えしている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8			

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8				
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8			相談しやすいようこちらからも声掛けを行っている	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		8			
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8				開催の要望があるか保護者に確認してみる。あれば開催に向けて準備していく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8				インスタグラムとホームページに力を入れており、保護者の方も見ていると仰ってくれている
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8				
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8				お子様には絵カードを用意したり保護者様にはレビ版説明書なども用意しています
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	7			
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8				職員全員が臨機応変な対応を取る事ができるように色々な事例での訓練を継続する。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	1			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8				
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8				アレルギーのある子が少なくある場合も少量ならOKと言われている。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8				
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8				
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8				
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8				定期的な虐待防止研修を行っている。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7	1			身体拘束する子供がいないので現在は個別支援計画に記載していない	

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名		ミライエきっず真田山					公表日	R7 年 3月 7日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		個室もありクールダウンや学習等集中できる				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		手厚く支援出来る配置数である				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		2階とゆう点はバリアーフではないが、室内はフラットになっている。	おもちゃがバラバラになる事がある為、片付けBOXをより見やすくして行く			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		室内もありクールダウンや宿題も落ついてできる				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		学習支援やメンタルや特性に合わせて気持ちの切り替えなどで提供している				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8			目標設定の振り返りを増やしていこうと思っています。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8			ご意見を元に改善していけるよう務めています。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8						
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	5		今後必要に応じて行っていきます。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		様々な分野の研修を定期的に行っている	・必要に応じて積極的にZOOM等利用し参加しており、今後も受講できるよう職員に情報を流していく。			
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8						
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8						
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8						
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8						
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8						
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		定期的に話し合いを行い、具体的な支援内容を決めている				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		イベント行事ごとにチームで協力して行っている				

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		大まかな内容は固定しているものもあるが内容をその都度変えるようにしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		朝のミーティング時におこなっている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		次の日に前日あった事等振り返りをしている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		システム、紙ベースにて追いつもできるように記録しています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		メッセージや電話のやりとりから見直しの必要性の判断をしている。	各関係機関での連携をさらにスムーズに行い、計画見直しの必要性について早期に判断できるようにしていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	8			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8		やりたくない事や苦手な事などがあると子供と何なら一緒に出来るのかを考えて参加してもらったり、やりたい事があると叶えている	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	1		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		・主に保護者を通して行っている ・変更がわかるようにホワイトボードにも記載している	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	4	該当する児童がいない	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	7	やむおえない措置の利用の子は子相と連絡を取っており、他相談員・区役所と連携を図っている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	7	外出時に地域の他児童と関わる機会があった	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	2	子相等、支援会議に参加している	必要に応じて今後も参加致します
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	6		研修会の情報提供を行っていく 開催している事業団や会社を探す
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8			

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	2	6		開催の要望があるか保護者に確認してみる。 あれば開催に向けて準備していく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8		インスタグラムとホームページに力を入れており、保護者の方も見ていると仰っている	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わった事業運営を図っているか。	4	4		今後招待できるような事があればぜひ招待したいと思っています。
	非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		研修を行いSNS等発信している
47		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8			
48		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8			
49		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		アレルギーのある子が少なくある場合も少量ならOKと言われている	
50		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8			職員全員が臨機応変な対応を取ることができるよう、色々な事例での訓練を継続する。
51		子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8			
52		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8			
53		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		定期的な虐待防止研修を行っている	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8		身体拘束する子供がいないので現在は記載はしていないが、組織的に研修、ミーティングをして取り決めはしている。		